

A Successful Endovascular Intervention for SFA-Long CTO using CROSSER

Fukuyama City Hospital, Japan
Tomofumi Mizuno

【背景】本邦では SFA 領域の Long CTO への EVT において、手技成功及び長期開存を得るため様々な Strategy をとってきた。2014 年になり本邦でも SFA 領域の貫通用カテーテルとして CROSSER の使用が認められ SFA 領域の治療成績向上が期待されている。

【症例】78 歳男性。Ruhterford2。術前の CT で右浅大腿動脈入口部 - 遠位部にかけて石灰化を伴う Long CTO、大動脈 - 両側総腸骨動脈の分岐が急峻という所見を得た。従来なら「対側山越えアプローチ+裏パン」での 2 方向性アプローチを選択していたが、本症例では対側山越えアプローチで CROSSER を用いる方針で手技を開始した。CTO entry のみ 0.014inch wire+IVUS で True lumen を確保し、その後は CROSSER のみで CTO をごく短時間で Penetration することに成功した。IVUS でも CROSSER が完全に True lumen を捉えていたことを確認できた。CROSSER を用いることで、短時間で安全に Long CTO の True lumen を確保し EVT を成功し得た。CROSSER の有効性に関して文献的考察を踏まえて本症例を報告する。